

「地方の現実」その後

ちょうど2年前、2010年の3月、第18回のコラムで「タクシーと協業」というテーマで、ある地方都市の現実を紹介させて頂いた (<http://www.system-origin.jp/about/column/>)。

実はこの地方都市とは、システムオリジンが本社を置く清水市(2003年4月より静岡市清水区)の事である。コラムでは当時の



惨状を表すものとして「一社が倒産、夜逃げ、二社が会社売却」と書かせて頂いたが、昨年さらに中堅の40台の車両台数を持つD社が地元私鉄系のSタクシーに営業権譲渡、そして車両台数10台のMタクシーが、倒産、廃業した。すべてオリジンの大事なお客様であった。昨年1年の実動台数の日車営収平均は21,659円、しかし認可台数当たりで行くと15,453円であり、また乗務員の月間

営収の平均は408,775円である。稼働台当たりの平均日車走行キロは125・9キロ、実車キロは54・5キロ。これでも減車の効果故か、前年より3%ほど増えてはいる。しかし実在車両が確かに8%程減っているが、実働数は10%近く減っている。実働率が70%しかないの

で、減車をしても乗務員の数が同じであれば実働数は減らないはずであるが、減

清野吉光氏のコラム 第40回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株式会社タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアソシエイト代表取締役社長に新任。現在に至る。



再び

「タクシーと協業」

車以上に実働数が減ってしまっている。結果稼働台数当たりの数字が改善しても業界としては悲しい。昨年の清水地域の総営収は7%減り、また総輸送人員も7%減った。そして乗務員さんも7%減った。乗務員さんの高齢化も激しい。先の営業権譲渡をしてタクシー業界から撤退した社長が、それを決断する大きな理由が、この乗務員の高齢化と新たな人材の補充の困難さだと語っていた。その会社では一番若い人が60歳で、労働力の支え手であった団塊の世代が退職すると、補充が効かず、実働率が下がるばかりであったと言う。タクシーの抱える問題は利用者への減少のみならず、雇用の問題、つまり典型的な労働集約産業であるにもかかわらず、肝心の労働者が確保できないという事にもある。そうなるとう然にも質の良い労働力の確保、教育も難しい、結果さらに利用者から離れてしまうという悪循環が繰り返されている。

「汗をかかねば!」

こうした地方都市の、ある意味典型的なタクシー業界の課題を抱える、清水地区の業界に対し、共同の配車センターの設立、そしてより根本的には新たな需要の創造、そしてその需要の創造を清水の町興しと連動してやったらどうか?と提案し「そして我々も外野から評論しているだけでなく、実際に我々が果たすべき役割を見つけ、汗をかきたい」と第18回のコラムに書いたから、まる2年が経った。

先の数字が語るように、清水のタクシー業界の事態は何も改善していない。むしろ危機は深まるばかりである。そして残念ながら第18回のコラムでの決意にも拘わらず、オリジン、あるいは清野自身がこの地元清水の困難に何もお役に立てていない。オリジン20周年の「未来への志」の中で、タクシー産業の活性化の為に「タクシーの新しいビジネスモデル創造のお役に立ちたい、そのために何でもやる」と決意しながら、未

だその活動の目的を付ける事ができないでいる。情けない限りだ。しかしこの10年間で全国の進んだタクシー会社の事例を学び、知己を得、ネットワークの一端に加えて頂いた事は、今後のこの志の持続のエネルギー源となっている。

おりしも今年2012年はオリジン創立30周年となる年度でもあり、来年2013年2月21日の創立記念イベントを目標に「ITを通じて生活総合移動産業創造のお役に立つ」という新しいミッションを確立し、そしてそれを実現しうるオリジンの第3次創業を果たしたい。そしてそのための徹底した社内改革と対外的なコラボレーション事業の推進を、この4月から目指していきたい。

「地元での責任」

その中で、この地元清水の課題への取り組みなくして、オリジンの理念やらミッションは所詮、空語と御題目にすぎないと言われても仕方がない



と思う。是非地元清水のタクシー事業者の皆さまと共に、ひとつは共同配車センター機能の実現による利用者利便の向上と、電話受け、配車機能の高機能化、省力化、省コスト化を実現すること。

さらに介護、福祉、観光、子育て、プレママ、24時間緊急駆けつけサービスなどを、全国で先進的に行っている事業者の指導、支援を受けながら、それらのサービスの導入をはかり、清水にまだない新たな需要を開拓する事。また静岡の先進事例でもある「みんなのタクシー」なども積極的にと

りいれ、若い新たな雇用の層を開拓する事。つまり単なる共同配車センターではなく、生活総合移動産業創造の実験拠点のひとつとしてサービスメニュー、デジタル無線などと併用したスマホ、モバイル系の受注、配車、決済の新たな仕組み、

運賃先決めや月極め定額乗り放題などの仕組みなどを試行する実験を、徐々にこの清水で挑戦してみたい。そしてその活動の試行錯誤を全国のタクシーに関わるすべての方(経営者、乗務員、利用者、運行管理者、関連業者)にネットなどを通じて公開し、タクシーの新しい発展をめざす人たちとの交流、ネットワーク化の一助にしたいと思う。

「タク未研」

いま、「タクシーの未来を切り開く研究会」という勉強会を全国の「総合生活移動産業」あるいは「生活支援産業」という観点から、タクシー産業を新たな産業に生まれ

変わらせようと努力されているタクシー事業者様達と共に設立すべく、準備を進めている。3か月に1回ほどの頻度で全国の先進事業者の見学とその経営者の講演+外部講師の講演、さらに宿泊合宿による交流などを基本的な活動とし、年に1回は海外のタクシー事業の研修旅行なども企画したいと思っている。また、各地域でのメンバーによる新サービスや仕組みなどの創造活動にも、会として積極的に支援、交流などの活動も行えたら素晴らしいと思う。いずれにしてもタクシー業界は大きな転換期にある、「適正化」だけではなく「活性化」のために様々な試行錯誤が避けて通れないと思われる。その試行錯誤のエネルギーの総量が、タクシー業界の未来を切り開けるか否かのバロメータ

だと思う。清野の役割は地元清水で、総合生活移動産業創造の試行を實踐し、そして成功しようと失敗しようとその結果を業界に還元していく事だと思っ。

(2012年3月20日記)

お客様の「ありがたう!」が、毎日の活力です!

タクチャージ

タクチャージで

売上
やりがい
コミュニケーション
サービス
イメージ

UP!!

タクシー車内 充電OK! TAXCHARGE

● 対応機種

1. docomo-FOMA/SoftBank-3G
2. auCDMA/au-WIN
3. ipad, iPhone-3G/4G, iPod (第五世代、classic)、iPodtouch、nano
4. その他microUSBを使用するゲーム機、デジタルカメラ、携帯型小型PC等

(販売元) 株式会社システムオリジン

03-3834-8352